

2021.10.24

第3種郵便物認可

# 集えカーラー 北見に新ホール開業

(下)



ゲームや体験でぎわう稚内市のカーリングホール=8日

今月上旬の夜、稚内市の複合スポーツ施設「市みどりスポートパーク」内にあるカーリングホールでは、リーグ戦や体験会でカーリングを楽し

む市民の声が響き渡っていた。同僚8人と体験会に初参加した市内の消防士、青木秀貴さん(49)は「新ホールのおかげで競技の敷居が下がっ

た。チームを作り、リーグに参戦したい」と笑顔を見せた。

5月末、通年営業の新しいホールをオープンさせた稚内市。稚内カーリング協会によると、市内に初めてホールができるのは1982年。当時はまだ珍しい屋内施設だった。その年からリーグ戦も行われるなど競技の歴史は古かつたが、ホールは市内の郊外にあった上、冬季のみの季節當業。正規の規格のシートも一つしかなく、カーリング界での知名度は低かった。

2011年、老朽化したホールの新設を公約した工藤広一郎が初当選。15年に、移転後の稚内大谷高の跡地にホールを含むスポーツパークを整備する方針を表明し、その後の稚内大谷高の跡地にホールが今年完成した。建設にあたり市がこだわったのが、国際大会を開催できる規模と規格だ。立地はホテルが多く、利便性が良い市中心部。4シ

メートルを備え、2階観客席、報道陣が入るスペースもあり、いずれも北見市の新ホールを上回る設備を備えた。

その効果として真っ先に表

れたのがカーリングチームの合宿だった。稚内市教委によると、昨年まで1件もなかつた合宿が、今年は9月末までにSC軽井沢クラブといったトップチームから大学の部活動まで、北見市を大きく上回る8団体、延べ356人が合宿で市内を訪れた。稚内市教委は「ホテルや稚内空港とのアクセスが良く、施設内の多目的体育館や柔道場をトレーニングに使用できる利点もある」と新ホールの売りをPRする。

協会の富田伸司会長は「合宿や大会は、市民がトップ選手のプレーを間近でみるチャンス。競技人口の増加とともに、積極的に誘致に取り組みたい」と話し、カーリングによる地域活性化に今後も力を入れていく考えだ。

「カーリングのまち」と呼ばれてきた北見市。稚内市の成功例や、すでに協会登録選手数が北見市を上回るほどカーリングが盛んな札幌市などの追い上げがある中、その地位を守れるのか。北見市教委は「常呂は国際大会に対応でき、北見では（北見工大の工学技術を生かした）技術力向上が図れる」と他都市との違いを強調する。

辻直孝市長が目指す「カーリングによるまちづくり」。

実現には伝統だけに頼らない

地域一体となつた工夫も必要

になる。

大規模大会の誘致も順調だ。11月開催の国際大会「パシフィック・アジア選手権」は、新型コロナウイルスの影響で中止となつたが、来年2月には「カーリング日本一」

大会を備え、2階観客席、報道陣が入るスペースもあり、いずれも北見市の新ホールを上回る設備を備えた。

協会の富田伸司会長は「合宿や大会は、市民がトップ選手のプレーを間近でみるチャンス。競技人口の増加とともに、積極的に誘致に取り組みたい」と話し、カーリングによる地域活性化に今後も力を入れていく考えだ。

「カーリングのまち」と呼ばれてきた北見市。稚内市の成功例や、すでに協会登録選手数が北見市を上回るほどカーリングが盛んな札幌市などの追い上げがある中、その地位を守れるのか。北見市教委は「常呂は国際大会に対応でき、北見では（北見工大の工学技術を生かした）技術力向上が図れる」と他都市との違いを強調する。

辻直孝市長が目指す「カーリングによるまちづくり」。

実現には伝統だけに頼らない

地域一体となつた工夫も必要

になる。

(古市優伍)

## 盛り上がる稚内

# 「国際規格」で大会誘致

を決める日本選手権が行われる。市はパンソニック・アジア選手権開催で3100万円、日本選手権開催で4500万円の経済効果があると試算し、ホール開業の地域へのプラス効果は大きい。

協会の富田伸司会長は「合宿や大会は、市民がトップ選手のプレーを間近でみるチャンス。競技人口の増加とともに、積極的に誘致に取り組みたい」と話し、カーリングによる地域活性化に今後も力を入れていく考えだ。

「カーリングのまち」と呼ばれてきた北見市。稚内市の成功例や、すでに協会登録選手数が北見市を上回るほどカーリングが盛んな札幌市などの追い上げがある中、その地位を守れるのか。北見市教委は「常呂は国際大会に対応でき、北見では（北見工大の工学技術を生かした）技術力向上が図れる」と他都市との違いを強調する。

辻直孝市長が目指す「カーリングによるまちづくり」。

実現には伝統だけに頼らない

地域一体となつた工夫も必要

になる。